

ふくしま オーガニック通信



～オーガニック・ランドふくしまをつくろう～



R2-2 令和2年11月11日
福島県農業総合センター

有機農業推進室
福島県郡山市日和田町高倉

字下中道 116 番地
TEL 024(958)1711 FAX 024(958)1730

Email : yuuki_otasuke_soudan@pref.fukushima.lg.jp

広野におけるスマート農業の取組経過を紹介します

農業総合センター 有機農業推進室

農業総合センターは、農林水産省の「令和2年度スマート農業実証プロジェクト」に採択され、「中山間地域における水稲スマート有機栽培体系の実証」に今年4月から取り組んでいますので、その取組経過を紹介します。この実証は福島大学食農学類や（株）キセキ東北等とコンソーシアムを構成し、広野町の（株）新妻有機農園ですすめています。

水稲有機栽培は、抑草が生産性や品質に大きな影響を及ぼし、その作業には労力がかかることから、スマート農業機器を活用して、各種作業の省力化や生産性・品質の高位平準化を図ることが可能かを実証しています。

雑草の抑制では、直進アシスト田植機で移植後、高精度水田用除草機による除草作業を3回行い、10 a 当たり延べ1時間程度で作業することができました。また、自動水管理システムでは、スマートフォンでの水位確認や水位ゲートの開閉が行え、深水管理を安定的に行うことにより、ノビエ等の雑草発生を概ね抑えることができました。

水稲有機栽培の安定化・高位平準化に向けては、幼穂形成期頃の葉色診断、土壌特性調査及び収量コンバインによるほ場毎の収量把握を行い、次年度の可変施肥ブロードキャスターによる基肥散布や肥培管理に活用する予定です。

また、中山間地域では法面の草刈り作業が重労働で危険性も高いことから、自走リモコン草刈機による省力化に取り組んでいます。自走リモコン草刈機の作業能率は1時間当たり7.7 a となり、刈払機の約1.6倍であり、労働負荷も大幅に軽減されたとの評価を得ています。

経営管理記録は、営農支援アプリ「アグリノート」を活用し、スマートフォンやパソコンから作業時間や使用機器を入力しています。今後は、経営評価に活用する予定です。

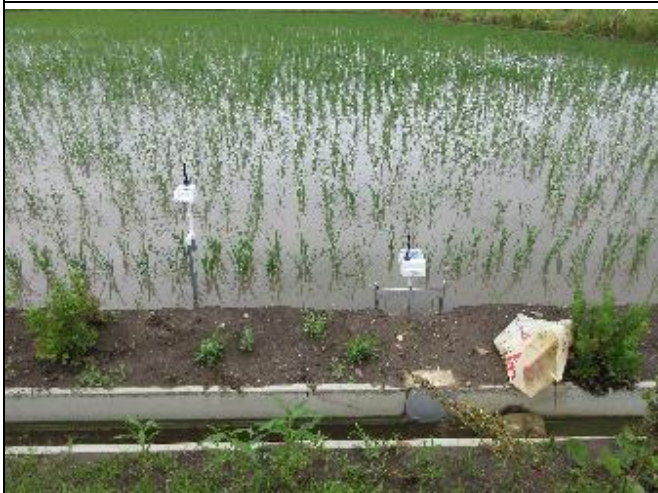
今年度は、7月の長雨や日照不足、8月の高温等により、いもち病やカメムシ被害が例年より多発した厳しい年となりましたが、スマート農業機器の活用による省力化には手応えを感じる事ができました。今年度の結果を次年度の実証に活かしていきたいと考えています。



直進アシスト田植機（5月14日）



機械除草（6月5日）



自動水管理システム（6月5日）



自走リモコン草刈機（6月30日）

令和2年度福島県有機栽培米生産者訪問見学会を開催しました

農業総合センター 有機農業推進室

有機栽培米の販売促進を図るため、首都圏の米穀小売店を対象にした福島県有機栽培米生産者訪問見学会を開催しました。今年で4年目になります。見学会は9月13日（日）と10月11日（日）の2日間に、浜通り（Aコース）、中通り（B、Cコース）、会津（Dコース）の4コースを設け、米穀小売店が希望するコースに参加する「コース選択型」として行い、両日合わせて21名（米穀小売店12社）の方が参加されました。

<参加者の声>

〔Aコース〕アイガモではなく、アヒルを使った有機JASはめずらしい上に、消費者に説明しやすい。有機農法専門なだけあって、種子消毒や手をかけている農法の説明がわかりやすく、一束の米の多さに驚きました。

〔Bコース〕ほ場の環境や位置など有機栽培に適した条件だと感じた。また、農舎において充実した設備と行き届いた清掃に驚いた。環境に対する生産者の考え方や取組に感動した。除草の回数等のご苦労や風評に対する思いを有意義に話し合う事ができました。

〔Cコース〕若手ながら精一杯耕作に取り組んでいる気持ちが伝わった。これからの有機栽培の拡大に期待したい。生産者の話が参考になった。有機栽培を消費者に伝えたい。

〔Dコース〕福島県の農家の現状について参考になった。主食としての米以外にいろいろ工夫されていて刺激になった。アイガモ農法に興味を持ちました。

Aコース 9/13 広野

新妻有機農園



Aコース 9/13 南相馬

渡部有機農園



Bコース 9/13 白河

遠藤有機農園



Bコース 9/13 白河

ほたる浪漫



Cコース 10/11 郡山

なかむらさんち



Cコース 10/11 福島

やまろく米出荷協議会



Dコース 10/11 会津若松

あいづ有機農法生産組合



Dコース 10/11 会津若松

すとう農産



『オーガニックふくしまマルシェ 2020』を開催しました！

環境保全農業課

令和2年9月12日（土）に郡山駅前西口広場にて、オーガニックふくしまマルシェ2020を開催しました。一時、小雨模様となりましたが、約1,200名が来場され、大盛況のイベントとなりました。

当日は、新型コロナウイルス感染防止対策を行った上で、22団体が出展し、「ファーマーズ Market」、「クラフト Market」、「PR ブース」など工夫を凝らした展示を行いました。主婦や子供連れの来場者も多く、「安全・安心」、「環境にやさしい」など県内各地のこだわりの農産物にふれる機会となりました。

来場者からは、「有機農産物を知るきっかけになった」、「また購入してみたい」など来年度も継続的な開催を望む声が多く寄せられました。

県では、有機農業の取組が拡大するよう、有機農業の理解促進及び有機農産物の消費拡大に向けた取組を進めてまいります。

【ファーマーズ Market 出展ブース (17)】

あいづ自然栽培農家の会 会津春泥、農事組合法人ひかり、オーガニックふくしま安達、NPO 法人福島県有機農業ネットワーク、あさか野 CSA、秀ちゃん楽農園・食育工房ひまわり、秀明自然農法・Hitomi 倶楽部、(株)ほたる浪漫、チャルジョウ農場、仁井田本家、リオリコ農園、福福堂、Blue Bee・(株) agrity、喜多方ゆうきの和、モクレンの木 自然食品の店、Home Made Endoh、ほしくまファーム

【クラフト Market 出展ブース(4)】

プリマリア、シトロン、CROWN BEAT、earth garden

【郡山女子大学食物栄養学科によるPRブース】

葛尾村での活動実績紹介、えごまレシピの紹介等



オーガニックふくしまマルシェ 2020 の会場の様子

普及コラム①

田村市滝根町で有機栽培に取り組んでいる稲福夫妻を紹介します！

農業総合センター 有機農業推進室

稲福夫妻は、「いいあんべえ（農業部門）」と「福福堂（加工部門）」を運営しています。「いいあんべえ」は、「大気・水・大地を汚さないことを基本とした農業」を理念に、すべての作物を農薬・化学肥料を使わずに栽培しています。主な生産物は黒米、米、エゴマ、ブルーベリー、ラズベリーなどです。今回、黒米を作付けしている15aで有機JAS申請を行いました。また、「福福堂」は、自家栽培した農産物で黒米甘酒、エゴマ油、ブルーベリージャムなどの加工品を作っています。また、ジャムや甘酒などの受託加工も行っています。



黒米ほ場（10月3日刈取、自然乾燥）



稲福さん一家

普及コラム②

郡山環境保全農業研究会の活動をご紹介します！

農業総合センター 有機農業推進室

有機農業推進室では、郡山環境保全農業研究会の活動を支援しています。7月31日に研究会員ほ場等の現地見学研修会を開催しました。会員6名のほか、JA福島さくら管内、泉崎村、天栄村など他地域からの生産者など会員以外も含め16名の参加で行われました。研修会では、農業総合センターほ場を見学し、試験の取組状況について研修しました。また、天栄米の米・食味分析鑑定コンクール国際大会参加に携わった吉成邦市氏からは良食味のポイントについての研修を受けました。その後、会員ほ場を巡回し、情報交換を行いました。また、10月26日には、今年収穫した会員自慢の米を持ち寄り、食味計等による食味調査を行いました。今後、郡山環境保全研究会会員は、第22回米・食味分析鑑定コンクール国際大会 in 富士山に参加する予定です。



農業総合センター内の有機水稲ほ場見学



食味計による有機栽培米の食味値測定

普及コラム③

檜葉町の特産品「ユズ」での有機 J A S 認証取得への取組

相双農林事務所 双葉農業普及所

檜葉町の松本広行さんは、震災前から有機 J A S 認証を水稲で取得しており、一時中断しましたが、震災後の平成 29 年に檜葉町に戻り、水稲有機栽培を再開しました。

今年度、新たに檜葉町の特産品である「ユズ」で有機 J A S 認証を目指しています。松本さんの「ユズ」は、お父さんの代から栽培されている樹で、10 a のユズ畑は今年も大きな実を付けています。

檜葉町のユズのキャラクター「ゆず太郎」は松本広行さんが生みの親です。

松本さんは、11 名で構成する檜葉町ユズ研究会の会長も務めており、「さわやかな味と香りがする有機栽培の『ユズ』を皆様に届けたい」と話しています。



ユズの生育を確認する松本広行さん
(10月20日)



ゆず太郎のひとりごと

普及コラム④

こだわりのお米を作り続ける福島県環境保全稲作研究会

相双農林事務所 双葉農業普及所

福島県環境保全稲作研究会は、相馬市と南相馬市で有機栽培と特別栽培のお米を作っています。

会長は相馬市の渡辺正行さんで、有機JAS認証を取得しています。

会員相互の見回り研修会や先進地視察研修などを実施し、会員の技術研鑽に努めています。今年も7月に会員間の水田を視察する研修会を行い、機械除草機による雑草の抑え方や肥培管理など、熱心に話し合っていました。



現地研修会で会員間の水田を視察
(7月30日)

普及コラム⑤

磐梯町農産物ブランド化推進会議の取組

会津農林事務所 農業振興普及部

磐梯町農産物ブランド化推進会議（事務局：磐梯町農林課）は、2018年に環境にやさしい農業の推進による地域の活性化と農業所得の向上を目的に設立されました。町は、磐梯町農産物ブランド化確立事業を立ち上げ、認定農業者および有機栽培等に意欲のある生産者を応援しています。会津農林事務所は、町等と連携してこの取組を支援し、会津地域の有機栽培を振興してまいります。



乗用管理機による水田除草の見学会



ほ場での栽培技術支援

普及コラム⑥

会津ロジカルオーガニック農業推進協議会の取組

会津農林事務所 農業振興普及部

会津ロジカルオーガニック農業推進協議会（会長：湯田芳博氏）は、土壌診断に基づいた施肥など科学的な有機栽培を実践し、有機栽培による産地形成を目的の一つとして、2019年に会津若松市、喜多方市、会津美里町、南会津町の4市町の生産者10名により設立されました。会津農林事務所は、栽培技術講習会にて有機栽培に興味のある生産者および新規就農者等に対して技術支援等を行っています。



栽培技術講習会

講習会では、各自がテーマや課題を持ち寄り、ディスカッション及び情報交換などを通し、課題解決を図るようにしています。今後もこのような取組を支援することにより、会津地域の有機栽培を振興してまいります。

《お知らせ》

令和2年度 環境にやさしい農業拡大推進事業について

環境保全農業課

県では、有機JAS認証取得や機械・施設等の整備を支援するため、下記の事業について、現在、募集しておりますのでご活用ください。

（申請受付：12月11日（金）まで）

- 1 有機JAS認証拡大支援事業
・有機JAS認証の新規及び継続の認証取得を希望する方に、新規認証費用の**3/4以内**（小分け認証の場合は定額）、認証継続費用の**1/2以内**を補助します。
- 2 環境にやさしい農産物供給体制の整備
・有機農産物等の生産規模や品目の拡大、出荷の安定化に向け有機農業者等が共同で利用する機械・施設等の導入経費を支援します。

詳細については、下記ホームページを参照するか、下記の農林事務所等へお問い合わせください。

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021d/yuuki-keikaku-04.html>

○問い合わせ先

県北農林事務所	: 024 - 521 - 2604	県中農林事務所	: 024 - 935 - 1307
県南農林事務所	: 0248 - 23 - 1555	会津農林事務所	: 0242 - 29 - 5302
南会津農林事務所	: 0241 - 62 - 5253	相双農林事務所	: 0244 - 26 - 1147
いわき農林事務所	: 0246 - 24 - 6160		
農業総合センター有機農業推進室	: 024 - 958 - 1711		
農林水産部環境保全農業課	: 024 - 521 - 7453		